

Listen and Speak! らくらく英検2級 II

～ 英語ができる人になる ～

第4回 What is important in helping others? 日本語訳

* はじめに *

ようこそ “Listen and Speak! らくらく英検2級 セカンドシリーズ”へ。

この番組は英検でおなじみの、日本英語検定協会がお送りする、全ての『英語ができる人』になりたい人たちのための番組です。これから英検2級や準2級を目指す人はもちろん、さらにその上を目指して、本当に『英語ができる人』になりたいというあなたにとって必ず役に立ちますよ。後半はちょっと難しかったり、大変だったりするかもしれませんが、私、伊藤太と頼れるパートナーの Gary Scott Fine がしっかり『英語ができる人』になりたいあなたをサポートします。

この番組はあなたが英検の試験で合格するのに役立つだけではなく、あなたの英語力、とくに聞く力と話す力を高めるのに役立つことでしょう。しかし、この番組の本当の目的は英語そのもの以上のものを学びとるお手伝いをすることです。

私たちはあなたが英語をできるかどうかだけではなく、あなたが英語を使って何ができるかに興味をもっています。

Program Number 4 “What is important in helping others?”

さて、今回のタイトル “What is important in helping others?” は「他者の助けになるとき大切なことは何ですか」という意味です。援助する側は「何とか助けてあげたい」という善意と情熱からボランティア活動や慈善活動に従事するものです。しかし、それが必ずしも援助を受ける側の本当の利益につながっているか、と考えると、様々なことに気を付けなければならぬかもしれません。また、これは日頃、周囲の人々に対して何か手助けをしたいと思う場合にも当てはまるかもしれませんね。今回は、いくつか興味深いエピソードを紹介しながら、こうしたことを一緒に英語で考えていきたいと思います。それでは、この後のヒントになるかもしれないので、まずはゲーリーと私の会話を聞いてください。

■Introduction (導入の対話)

G: やあ、フトシ。疲れてそうだね。どうかしたのかい？

F: 今朝、ビジネスコンサルタントとしてある顧客のオフィスで会議に出席したんだけど、それがとても疲れる会議だったんだよ。

G: 本当？ もしよかったら、もう少し話してもらえるかな。

F: 聞いてくれてありがとう。僕はコンサルタントの仕事は好きなんだ。だって顧客を助けるのは楽しいし。でも、ヘトヘトになることもあるんだよ。想像がつくだろうけど、大抵、何らかの問題があるから僕は相談のために呼ばれるわけなんだ。顧客が抱える問題の中にはとても深刻なものもあるしね。彼らは急激な社会変化に直面しているんだ、例えば、急激な少子化とか、グローバル市場での競争激化とか。ときには顧客は過去に上手くいったことをやり続けたいと思うことがある。そうした行為が現在は上手くいかなくなっているもね。それに、大局を見失ったままで細かなことの話し合いにとらわれがちなんだ。自分が今いる建物がもう焼け落ちようとしているのにそれに気が付かないまま、新しいスプリンクラーシステムの取り付け方を議論してる、みたいだね。

G: ハハハ。それで、君はビジネスでは幅広い視点をもって世の中で起こっていることを様々な角度から見るとして考えているんだね。

F: そう、その通りだよ。

G: ふーむ、君に一つ質問があるんだけど、フトシ。静かに座ったまま議論の行方に任せて顧客が自分たちで答えを見つけるのを待つのがいいか、それとも、ただ彼らに素晴らしい解決策を与えるのがいいか、どっちだろう。

F: いい質問だね、ゲーリー。完全に前者のほうがずっといいよ。そりゃ解決策を与えるほうがずっと簡単だけど、それじゃ上手くいかないんだよ…。ああ、そうだよ！ 君の言いたいことが分かったよ。ふーむ、何だか気持ちが楽になったよ。鋭い質問をありがとう、ゲーリー。

G: どういたしまして、ミスター・コーチ。僕も君みたいに人の役に立てるとうれしいよ。じゃあ、そろそろおしゃべりをやめて今日のエクササイズを始めるのがよさそうだね。

F: うん、了解。

G: それじゃあ、今日のエクササイズを始めようか。

F: それでは…

G/F: 始めよう！

1 Exercise 1 dialogue (対話)

これから流れる男女の対話を聞いて、後の問いに答えてください。これから流れる対話は過去の英検に出題されたリスニング問題の一つです。実際の問題は、対話を聞いてから適当な選択肢を選ぶ形式ですが、ここではちょっと頑張って、ゲーリーの質問に自分の言葉を使って英語で答えてみるようにしてください。いいですか、もう一度言いますよ。対話を聞いた後、ゲーリーの質問に自分の言葉で答えてくださいね。二次試験の面接対策にもなりますし、とても役に立ちますよ。それでは、始めます。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。【2013年度 第3回 準2級 第14問】

男性：ジョンソン先生、卒業スピーチのことでお手伝いいただけませんか。

女性：もちろんよ、チャーリー。喜んで手伝うわ。もう始めたのかしら。

男性：ええ、いくつか異なるバージョンで書いたんですが、どれもあまり気に入らないんです。

女性：ふーむ、それらを見せてちょうだい。そうしたら、話ができるわね。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：ジョンソン先生から助けを得るためにチャーリーはまず何をすべきですか。

それでは、語彙と会話の表現について確認をしましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1. ～していただけませんか | I was wondering if you could ～ |
| 2. B (事) のことで A (人) を助ける | help A with B |
| 3. 卒業式のスピーチ | graduation speech |
| 4. 別個の種類、異なるバージョン | different version |

それでは、少し答え方についてヒントを出しましょう。男性の最初の発言、“Ms. Johnson, I was wondering if you could help me with my graduation speech.” から、卒業予定の男子学生が先生に卒業スピーチのことで手伝って欲しいと言っているのが分かりますね。“I wrote several different versions, but...” に対して女性は“You should show them to me. Then...” と答えているところがポイントです。代名詞の“them”を関係代名詞などを使って適切に表現することが必要になりますね。それでは、この点に注意してもう一度聞いてみましょう。

対話を聞いて次の質問に答えなさい。【2013年度 第3回 準2級 第14問】

男性：ジョンソン先生、卒業スピーチのことでお手伝い頂けないでしょうか。

女性：もちろんよ、チャーリー。喜んで手伝うわ。もう始めたのかしら。

男性：ええ、いくつか異なるバージョンで書いたんですが、どれもあまり気に入らないんです。

女性：ふーむ、それらを見せてちょうだい。そうしたら、話ができるわね。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問：ジョンソン先生から助けを得るためにチャーリーはまず何をすべきですか。

■模範解答

模範解答を聞いて、大事な点を考え、自分の答えと比較してください。

質問：ジョンソン先生から助けを得るためにチャーリーはまず何をすべきですか。

He should show her the different versions that he wrote.

彼は自分が書いた異なる種類の原稿を彼女に見せるべきです。

では少し確認しましょう。初めの説明の通り、ポイントは Ms. Johnson が “them” と代名詞で表しているものを、“the different versions that he wrote” と関係代名詞を使って説明的に表現している点です。こうした表現の仕方は、言いたいことやモノは頭に浮かんでもそれを表す単語が分からない、またはすぐに浮かんでこないというような場合に应用できます。例えば、“the audience” という言葉が浮かんでこないときは、“the people who attend the concert” と言い換えれば会話はスムーズに続きます。逆に、単語は分かっているてもその意味を説明しなければならぬときにも使えます。例えば、“sushi” をゲーリーに英語で説明してもらいましょう。

Gary?

Yes. I love to eat sushi, a Japanese dish made of small balls of rice with sliced raw fish.

(私はスシ、つまり、刺し身がのっている小さく丸めたご飯でできた和食、を食べるのが大好きです)

Thank you, Gary.

2 Exercise 2 passage (文章)

このエクササイズでは、短い文章が読まれた後にゲーリーが二つ質問をしますので、自分の言葉で答えてください。主語と正しい答え方に注意して、聞かれたことに対してまっすぐ答えてくださいね。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014年度 第1回 2級 第19問】

アンドリュー・カーネギーは19世紀の最も有名なアメリカ人の一人でした。彼は成功した鉄鋼会社を設立して億万長者になりました。年齢を重ねると、彼は貧しい人々を援助し始めました。彼は貧しい人々の生活を向上させる最良の方法は彼らに自分で学ぶ機会を与えることだと信じていました。これを行うために、彼は合衆国と世界中の両方に何千もの図書館を建てたのです。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問1：アンドリュー・カーネギーの信念によれば、貧しい人々の生活を向上させる最良の方法は何でしたか。

質問2：なぜそれが最良の方法かもしれないのでしょうか。カーネギーが考えていたかもしれないことを想像しながら、自分の意見を説明してください。

さあ、きちんと聞き取れましたか。それでは、少し語彙と英文の表現を確認しましょう。

■語彙と表現を学ぼう

私の日本語を聞いて、ゲーリーに続いて英語で発音してください。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 成功した | successful |
| 2. 億万長者、大金持ち | millionaire |
| 3. 自分で勉強する、独学する | teach oneself |
| 4. 何千もの、数多くの | thousands of |

この passage は実業家、富豪として有名なアンドリュー・カーネギーに関するエピソードです。実業家として成功した後、多くの社会貢献事業を行ったことでも有名ですね。その中の一つとして “built thousands of libraries” したことも大変有名ですが、ここではなぜそうしたのかについて、“He believed...” と彼の信念が簡潔に表現されています。

Question 1 はまさにこの辺りを尋ねているので、単に “He believed that...” あるいは “Carnegie believed that ...” と答えればいいでしょう。

Question 2 は、Question 1 の答えに関連した質問です。Carnegie が the best way だと信じていた方法 that がどうして the best way かもしれないのか、“Why might that be the best

way?” これについて、Carnegie が考えていたかもしれないことを想像しながら、自分の意見を説明してください、“Please explain your opinion, trying to imagine what Carnegie might have thought. という質問ですね。じっくり時間をかけても構わないので、考えを整理しながら自分の言葉で答えてみましょう。それではこの点にも注意して、もう一度聞いてください。

英文を聞いて次の質問に答えなさい。【2014 年度 第 1 回 2 級 第 19 問】

アンドリュー・カーネギーは 19 世紀の最も有名なアメリカ人の一人でした。彼は成功した鉄鋼会社を設立して億万長者になりました。年齢を重ねると、彼は貧しい人々を援助し始めました。彼は貧しい人々の生活を向上させる最良の方法は彼らに自分で学ぶ機会を与えることだと信じていました。これを行うために、彼は合衆国と世界中の両方に何千もの図書館を建てたのです。

次の問いに自分の言葉で答えなさい。

質問 1：アンドリュー・カーネギーの信念によれば、貧しい人々の生活を向上させる最良の方法は何でしたか。

質問 2：なぜそれが最良の方法かもしれないのでしょうか。カーネギーが考えていたかもしれないことを想像しながら、自分の意見を説明してください。

■模範解答

模範解答を聞いて、自分の答えと比べてください。

質問 1：アンドリュー・カーネギーの信念によれば、貧しい人々の生活を向上させる最良の方法は何でしたか。

Carnegie believed that the best way to make poor people’s lives better was by giving them a chance to teach themselves.

カーネギーは貧しい人々の生活を向上させる最良の方法は彼らに自分で学ぶ機会を与えることだと信じていた。

質問 2：なぜそれが最良の方法かもしれないのでしょうか。カーネギーが考えていたかもしれないことを想像しながら、自分の意見を説明してください。

Simply providing all the necessities for them might be a temporary improvement, but not a permanent solution. Giving them a chance to teach themselves is much more effective in the long run because it may help them to solve their problems for themselves. This could be the most realistic and effective way to make their lives better.

単に彼らに必要なもの全てを与えるのは一時的な改善にはなるかもしれないが、永続的な解決にはならない。彼らに自ら学ぶ機会を与える方が長い目で見ればずっと効果的だ。なぜなら、そうすることは彼らが独力で自分たちの問題を解決する助けになるかもしれないのだから。これは彼らの生活を改善させる最も現実的で効果的な方法になり得る。

さあ、どうでしたか。Question 1 は簡単ですが、Question 2 は少し難しかったかもしれません。ただし、“simply providing all the necessities for them” という比較対象が提示されているわけですから、単純に、“giving them a chance to teach themselves” と比較することを考えましょう。と言われてもそう簡単にはできない、と思うかもしれませんが、何かと何かを比較するには両者の特徴や長所と短所などを取り上げるのがコツです。

ぜひもデルアンサーを参考にして、比較を上手に使いながら自分の考えを伝える練習をしてみてください。こうした練習は『英語ができる人』になるのに、とても役に立ちますよ。

■英文を使った反復練習

さあ、ここからは、放送された英文について Repetition Drill を行います。repetition は反復でしたね。ポーズの間にゲーリーの英語をできるだけそっくりに真似してみましょ。単語の発音だけでなく、イントネーションや雰囲気も真似してくださいね。

1) 反復練習

それぞれにポーズの間に反復してください。何度も繰り返して練習してくださいね。そうすれば、きつもっと上手くできるようになりますよ。準備はいいですか。それでは、始めます。

Andrew Carnegie was one of the most famous Americans /
of the 19th century. //
He started a successful steel company /
and became a millionaire. //
When he got older, /
he began to help poor people. //
He believed /
that the best way to make their lives better was /
by giving them a chance to teach themselves. //
To do this, /
he built thousands of libraries /
both in the United States and around the world. //

どうでしたか。上手に真似ができると楽しいですね。さあ、次は『英語ができる人』は必ずと言っていいほど練習するシャドウイングにいきます。私が実際、少しシャドウイングのお手本を示しますね。ゲーリーの後に続いてシャドウイング、つまり、ゲーリーの言葉の影を追うよ

うな形で、聞きながらゲーリーの言葉を真似していきます。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。

(G → F)

Andrew Carnegie was one of the most famous Americans /
of the 19th century. //
He started a successful steel company /
and became a millionaire. //
When he got older, /
he began to help poor people. //
He believed /
that the best way to make their lives better was /
by giving them a chance to teach themselves. //
To do this, /
he built thousands of libraries /
both in the United States and around the world. //

要領はつかめましたね。次は実際に自分で **shadowing** にチャレンジしてください。**shadowing** は自分で **speaking** をするという負荷をかけながら **listening** をするので、筋トレと同じように「耳トレ」になります。必ず **listening** の能力が向上しますので、できるまで何度でも繰り返してください。

聞く音声の方を大きくして、自分の声はあまり聞こえないようにすると一層効果が上がりますよ。

2) シャドーイング練習 1

聞きながら、それぞれのパートごとにシャドーイングしてください。

準備はいいですか。それでは、始めます。

Andrew Carnegie was one of the most famous Americans /
of the 19th century. //
He started a successful steel company /
and became a millionaire. //
When he got older, /
he began to help poor people. //
He believed /
that the best way to make their lives better was /

by giving them a chance to teach themselves. //
To do this, /
he built thousands of libraries /
both in the United States and around the world. //

どうですか。できるようになるとすごく楽しいし、やりがいがあるでしょう。次はセンテンスの途中に区切りはありませんよ。各センテンスの間も短いですから、一気にパッセージ全体をシャドウイングできるように頑張ってくださいね。できたらとても達成感が得られますよ。

3) シャドーイング練習 2

センテンスの全体を最初から最後までシャドーイングしてください。何度も練習してくださいね。きっと達成感が味わえるはずですよ。準備はいいですか。それでは始めます。

Andrew Carnegie was one of the most famous Americans of the 19th century. //
He started a successful steel company and became a millionaire. //
When he got older, he began to help poor people. //
He believed that the best way to make their lives better was by giving them a chance to teach themselves. //
To do this, he built thousands of libraries both in the United States and around the world. //

3 Challenge passage & opinion (文と意見)

さて、いよいよ最後のエクササイズ、チャレンジのコーナーです。ここからは一気に英語だけで進めていきますから、しっかり集中してくださいね。

次の英文を聞いて、ゲーリーの質問に答えてください。【2013年度 第3回 準2級 第26問】

本日の講義へようこそ。講師はミッシェル・ターナー、ベルリンの朝やポーラの真珠などの映画で有名なスターです。しかし、今日は、彼女は自身のボランティア活動について話をしてくれません。彼女はちょうどナイジェリアから帰国したところですが、彼女はそこで貧しい子どもたちのために学校を建設する手助けをしていました。それでは、歓迎をもってご登場願ひましょう。

さて、これからゲーリーがこの文についていくつか重要な点を挙げ、そして質問をします。その質問に答えてください。できるだけ上手く自分の意見を表現できるようにしてください。

この文によれば、ミッシェル・ターナーという映画スターは、ナイジェリアで貧しい子どもたちのために学校建設の援助を行ってきたのですが、自身のボランティア活動について講義を行うところですよ。

これに関連して、「チャリティー・ボール」と呼ばれるものについて話をしたいと思います。それはイーサン・キングという14歳の少年が設立者の慈善団体です。イーサンが9歳の時、彼と彼の父親はアフリカ南東部にあるモザンビークを訪れましたのですが、そこで彼はたまたま、多くの子どもたちがプラスチックとひもでできた低品質のボールを使っているにもかかわらずとても楽しそうにサッカーをしているのを見かけました。そこで彼は自分のサッカーボールを差し出しました。するとあっという間に、子どもたちは本物のサッカーボールに大喜びして、彼の小さな親切に満面嬉々としてくれたのです。彼はその様子に大変感動しました。その子どもたちの目を見張らんばかりの反応がイーサンの慈善団体設立のきっかけになりました。この3年間でチャリティー・ボールは22カ国の国々の貧しい子どもたちに4,000個の本物のサッカーボールを寄付してきました。

一方では、計画的活動の一部として、有名な映画スターが貧しい子どもたちのために学校の建設を助け、もう一方では、9歳の少年が偶然、今や世界中に広がった慈善活動を始めました。ある面で、これら二つの例は全く異なりますが、他の面では多くの共通点もあります。

それでは、一つ質問をしたいと思います。貧しい人たちを助ける際、あなたは何が大切だと思いますか。自分の答えを説明してください。

■模範解答

さあ、フトシの言うことに耳を傾けてみましょう。彼が模範解答を提示します。よく聞いて自分の答えと比べてください。

私は大きく三つ重要な点があると思います。まず第一に、援助にどれほど多くのお金が支出されるか、またはその規模がどれほど大きいかはほとんど関係ないということを、私たちは肝に銘じて置かなければなりません。多くの場合、先進国の裕福な会社による貧しい人々を「助ける」大型プロジェクトが、皮肉にも、人道支援の名のもとに巨大な利益をその会社にもたらしているながら、援助を必要としている人々にはほとんど役立っていないのです。第二に、私たちは「彼らに教えよう」とするべきではありません。言い換えれば、私たちは現地の人々が本当に必要としているものは何かを学ぶ努力をすべきだということです。もし、私たちがもっと彼らと意思疎通をして彼らが話すことに真剣に耳を傾ければ、私たちだけでなく彼らも自分たちの生活を向上させる本当の機会を見出すかもしれないのです。イーサンのケースはその好例かもしれません。しかし、彼ら自身の能力と知力を強く信じるこそが最も重要です。彼らの生活を改善し続けるいかなる変化も、彼ら自身の意志、努力、情熱、知恵によってもたらされるのであって、外側からの援助からではありません。だから、私たちは彼らを尊敬し、ともに協力し合い、そして彼らが「自分で学ぶ」手助けをするべきなのです。

どうでしたか。フトシの言ったことは聞き取れましたか。彼の主張の要点は分かりましたか。オーケー、それでは、彼がたった今言ったことを説明しますから、よく聞いてください。

はい、ゲーリーはまず、ある講義でミッシェル・ターナーという映画スターが、ナイジェリアで行った、貧しい子どもたちのために学校を建設するボランティア活動の話をするという本文の内容を要約してくれました。

そして、これに関連して「チャリティー・ボール」という慈善団体にまつわるエピソードを紹介してくれました。なんと設立者はイーサン・キングという14歳の少年で、9歳のとき父親と一緒に訪れたザンビアで子どもたちがプラスチックとひもでできた粗末なボールでサッカーを楽しんでいる様子をたまたま見かけ、自分が持っていた本物のサッカーボールをあげたところ、子どもたちのあまりの喜びように感動した、というのが、慈善団体「チャリティー・ボール」設立のきっかけだったとのことでした。そして、この団体はここ3年間で4,000個もの本物のサッカーボールを22か国もの貧しい子どもたちに寄付しているんですね。

そしてゲーリーは、本文の映画スターの例とこの少年の例を比較して、違いもあるが共通点もあるとした上で、貧しい人々を助ける際に何が重要だと思うか、という質問を投げかけました。

これに対して私は、大事な点は大きく三つあると前置きをした上で、まずは物質的・外的視点から、援助の額や規模が問題ではないと心に留めるべきだと述べました。次に、自身の精神的・内的視点から、「彼らに教える」という姿勢ではなく、援助を受ける側の人たちの話によく耳を傾け、学ぶという姿勢が重要との認識について触れました。そして最後に、最も重要なのは貧しい人々に敬意を持ち、その能力と知恵を強く信じることだというさらに相手の精神的・内的側面に突っ込んだ主張で締めくくりました。このように、物質的側面、自身の精神的側面、相手の精神的側面へと論を深める展開を取ったのが分かりましたか。

今回も三つとも主張の後には根拠を提示したこと、二つの主張を受けて、最後に最も重要な主張を提示したことも参考にしてくださいね。

ぜひ、英検の公式ウェブサイトからスクリプトをダウンロードして、英文を確認してください。前回までのものと比較すると一層効果的です。

さあ、フトシの話をもう一度聞いてみましょう。よく注意して聞き、彼の意見の表現方法に注目してください。

私は大きく三つ重要な点があると思います。まず第一に、援助にどれほど多くのお金が支出されるか、またはその規模がどれほど大きいかはほとんど関係ないということを、私たちは肝に銘じて置かなければなりません。多くの場合、先進国の裕福な会社による貧しい人々を「助ける」大型プロジェクトが、皮肉にも、人道支援の名のもとに巨大な利益をその会社にもたらしているながら、援助を必要としている人々にはほとんど役立っていないのです。第二に、私たちは「彼らに教えよう」とするべきではありません。言い換えれば、私たちは現地の人々が本当に必要としているものは何かを学ぶ努力をすべきだということです。もし、私たちがもっと彼らと意思疎通をして彼らが話すことに真剣に耳を傾ければ、私たちだけでなく彼らも自分たちの生活を向上させる本当の機会を見出すかもしれないのです。イーサンのケースはその好例かもしれません。しかし、彼ら自身の能力と知力を強く信じるこそが最も重要です。彼らの生活を改善し続けるい

かなる変化も、彼ら自身の意志、努力、情熱、知恵によってもたらされるのであって、外側からの援助からではありません。だから、私たちは彼らを尊敬し、ともに協力し合い、そして彼らが「自分で学ぶ」手助けをするべきなのです。

■Closing Dialogue (結びの対話)

G: フトシ、今回も君は上手く構成された議論を提示してくれたね。外的側面から内的側面へ、そして物質的側面から精神的側面へと視点を変えるのはとても効果的だよ。僕はリスナーの皆さんに君の意見の構成方法を復習するよう助言したい。

F: ありがとう、ゲーリー。僕が使った構成は少し難しいかもしれないけれど、とても役に立つしリスナーの皆さんもすぐに慣れると確信しているよ。

G: 同感だね。ところで、フトシ、テレビで「TED スーパープレゼンテーション」という番組を見たのを思い出したよ。その中の一つで、様々なボランティア活動で多くの経験を積んだ、あるイタリア出身の男性が素晴らしいプレゼンテーションをして、とても面白いエピソードについて話したんだ。君はそれを見たかい？

F: いや、残念ながら見てないな。でも、TED は全く素晴らしいよ。僕も見るのが大好きなんだ。その面白いエピソードについて聞かせてもらえないかな。

G: もちろん。その男性の名前はアーネストー

F: シローリ？

G: そう、アーネストー

F: シローリ。

G: そう、そう、アーネスト・シローリ…、どうして知ってるだい？ その番組を見たの？

F: いや、いや。たまたまその名前に聞き覚えがあっただけだよ。話を続けて。

G: ああ、分かったよ。ええと、彼のキャリアはアフリカで形作られたそうなんだ。彼は若い頃、あるイタリアの NGO (非政府組織) で働いていて、その組織は現地の人々に食物の栽培方法を教えることに決めたんだ、南部ー

F: ザンビアで？

G: そう、ザンビア。そして、彼は…、んん？ やっぱり、それ見たの？

F: いや、いや、見てないよ。もっと話してくれないかな。そして、ザンビア南部で？

G: ええっと、そしてザンビア南部で彼らは食物、イタリアのトマトとかズッキーニとかの栽培方法を教えたんだけど、それがびっくりするくらいの大成功だったんだ。アフリカではあらゆるものが素晴らしく育つよね。大地は土壌がとても肥沃だし、川も通っている。とにかく、彼らは大きな赤いトマトを大量に育てることに成功したんだ。彼は、ああこれでこの人々を飢餓から救えるだろうと考えながら、現地の人たちに誇らしげにこう言ったんだ、「ほら、農業なんて簡単でしょ！」ってね。そしたら、夜の間約 200 頭のカバが川からやってきて全部食べちゃったといわけさ。

F: ああ、そりゃひどい。

G: そうなんだ。面白い話ではあるけど、我々先進国の人々がそこから何かを学ぶべき皮肉なエピソードでもあるよね。僕らはもっと謙虚になるべきなんだ。

F: そうは思わないけどね。そりゃ大成功だよ。

G: 成功だって？ 200 頭ものカバがやってきて…

F: おいしいトマトに大満足！ そのイタリア人たちは 200 頭ものカバを飢餓から救ったんだ！これはすごいよ！

G: ああ、フトシ。こいつは一本取られたな。でも…君、本当にこの話を知らなかったのかい？

F: ハハハ、バレたか。

さあ、今回のレッスンはどうでしたか。後半は少し難しかったかもしれませんね。ぜひ、英検のウェブサイトからスクリプトをダウンロードして復習してください。それから何度も聞き直して、自分でも話せるように練習してみてくださいね。Repetition や Shadowing だけでなく、話す内容の構成を組み立てること、そして相手に伝えること、こうしたトレーニングを続ければ、あなたも必ず『英語ができる人』になります。

ところで今回、セカンドシリーズ第 4 回目のタイトルは “What is important in helping others?” でした。今回、後半は「貧しい人々を助ける」ことに焦点を当てましたが、相手が誰であろうと、あるいは相手とどんな関係であろうと、「相手の立場や視点に立つ」ことの大切さに触れながら、本当の意味で「他者の役に立つ」ことについて考えてみました。皆さんも単に英語のための英語の勉強に留まらず、こうした学びを通してぜひ『英語ができる人』を目指してくださいね。

それから、今回紹介したエピソードはスクリプトにリンク先を掲載しましたので、ぜひ、そちらも参考にしてください。

Well, then...

See you next time!

☆Charity Ball

<http://charityball.org/>

☆TED talks: Ernesto Sirotti “Want to help someone? Shut up and listen!”

https://www.ted.com/talks/ernesto_sirotti_want_to_help_someone_shut_up_and_listen#t-169292

<講師陣プロフィール>

伊藤 太 (Futoshi Ito)

大手予備校・有名進学塾等で英語講師を務め、東大クラス・医学部コース等を担当。作成した教材から東大・筑波大等の入試長文問題を的中。コーチングを取り入れた研修方法を確立し、数多くの講師・教員の授業力・授業アンケート向上に寄与。現在、多数の私立学校にコンサルタント、アドバイザーとして関わるとともに、ネイティブスピーカーを含む学校教員・予備校講師（100名超）のコーチを務める。

ゲイリー・スコット・ファイン (Gary Scott Fine)

オレゴン州ポートランド出身。スタンフォード大学大学院修士課程修了（東アジア研究）、南カリフォルニア大学大学院修士課程修了（映画・テレビ研究）。現在、東海大学外国語教育センター准教授。主な研究テーマはエンターテインメントメディアを通じた第二言語習得。

朝日新聞・土曜版、『ENGLISH JOURNAL』（アルク）、『CNN ENGLISH EXPRESS』（朝日出版社）に映画・ドラマに関わる英語コラムを連載中。NHK 教育テレビ、アルクヒアリングマラソン等多数の番組で出演及びテキスト執筆で活躍。